

国内最大級のモーションキャプチャスタジオ「オパキス」 国内初となる 30 人同時モーションキャプチャー撮影に成功！

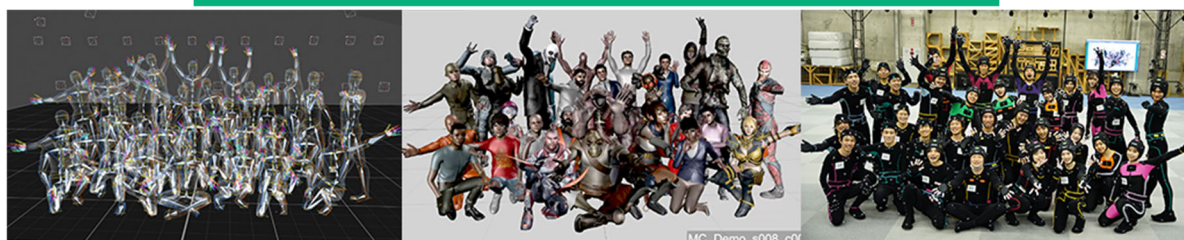
合戦や大人数でのダンスシーン等でよりリアルな映像制作が可能に

円谷フィールドホールディングス傘下の株式会社デジタル・フロンティア（本社：東京都渋谷区、代表取締役会長：植木英則、以下「デジタル・フロンティア」）は、東京・お台場にある日本最大級のモーションキャプチャスタジオ「オパキス」に 2025 年 1 月に新たに世界最高水準の高精度カメラ 100 台を導入。これを機に、国内初の 30 人同時モーションキャプチャー撮影に挑戦し、成功いたしました。

「オパキス」は現実の人物や物体の動きをデジタルデータとして記録するための設備を備えたモーションキャプチャー撮影に特化したスタジオです。これまでの国内のモーションキャプチャー業界では最大撮影人数が 16 人だったのに対して、「オパキス」では、およそ 2 倍となる 30 人での迫力ある撮影が可能となりました。

時代劇における合戦のシーンや大人数でのダンスシーン等、それぞれの動きをデジタルデータで取り込むことで、さらに迫力のあるリアルな映像制作が可能となります。そのほか様々な場面での活用が期待されています。

■ 実際の撮影風景：業界初の 30 人同時モーションキャプチャー撮影に成功したデモ映像と画像



[動画を視聴する \(Youtube\) https://youtu.be/IM3nDvA-l4A](https://youtu.be/IM3nDvA-l4A)

■ 30 人同時モーションキャプチャー撮影挑戦の背景

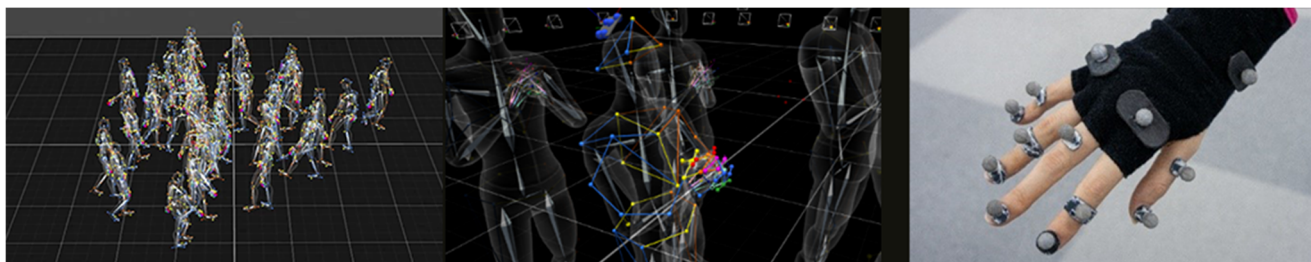
映画やドラマ、ゲームにおけるグラフィックスはますますリアルで没入感のある表現が求められており、それに伴って 3DCG の撮影・編集といった制作作業量も増加傾向にあります。こうした中、モーションキャプチャーの高精度化・同時撮影人数の拡大は、撮影回数と撮影時間を削減できるだけでなく、撮影時のシステム修正作業が減り、3DCG アーティストが対応する制作業務の効率化が図れるため、よりクオリティの高い映像を制作することができます。

■ 最先端カメラにリニューアルしたオパキスが更に進化

- ① 最大 30 人分の 5 本指データの同時取得が可能に
- ② フルエリア対応：15m×10m の全範囲で 5 本指のデータ取得が可能
- ③ システム修正・データ修正作業の大幅削減を実現

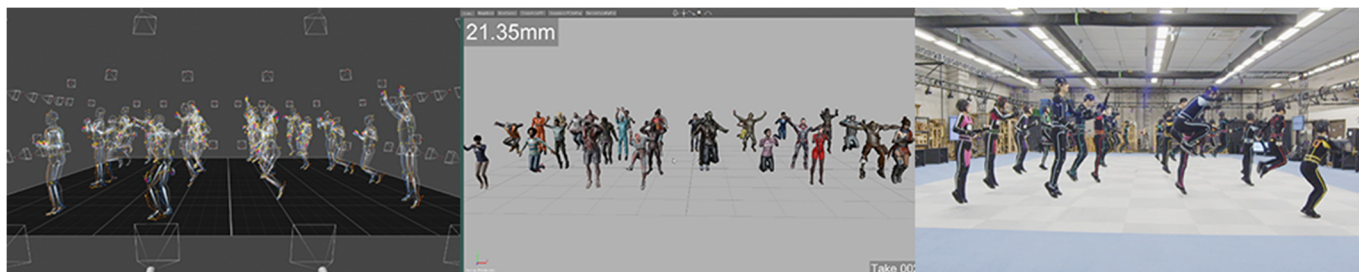
① 最大 30 人分の 5 本指データの同時取得が可能に

従来は撮影時に 3 本指のデータを取り、その後データを 5 本指に修正して納品することが多かったですが、システムのアップデートにより、最大 30 人分の 5 本指データを同時にキャプチャーできるようになりました。これにより、より複雑かつ大規模なシーンの収録にも対応可能となりました。



② フルエリア対応：15m×10m の全範囲で 5 本指のデータ取得が可能

これまで 5 本指のデータ取得はスタジオ中央（約 8m×4m）の範囲に限られていましたが、今回のリニューアルにより、15m×10m の収録可能エリア全体での 5 本指キャプチャーが可能になりました。広範囲での演技やアクションにも対応でき、演出の自由度が飛躍的に向上しました。



③ システム修正・データ修正作業の大幅削減を実現

最新のシステムでは、指の自動識別精度が向上し、撮影時の設定調整や手作業でのデータ修正が大幅に軽減されました。これにより、収録からポストプロダクションまでの作業効率が飛躍的に向上しました。



■ 実験を行ったモーションキャプチャーチームからのコメント

「今回の 30 人同時キャプチャーの成功は、長年取り組んできた多人数撮影における限界への挑戦の集大成です。リニューアル以前のオパキスでは、最大 16 人までの同時撮影の実績がありましたが、それ以上の人数での高精度なキャプチャーは困難でした。今年 1 月の最新鋭カメラ 100 台の導入により、20 人を超える大人数での同時撮影が可能であるという確信を得ることができました。

この進化した技術を通じて、これまで表現しきれなかった大規模な群衆シーンや複雑なインタラクションを、よりリアルに映像化できると期待しています。

業界初の 30 人同時キャプチャーの成功は、オパキスが新たなステージへと進むための重要なマイルストーンです。このリニューアルによって、より効率的かつ高品質なモーションキャプチャーを提供できる体制が整いました。今後の展開として、この進化した技術を積極的にアピールし、様々な映像制作現場での活用を促進することで、業界全体の発展に貢献していきたいと考えています。」

—— CG 制作部 モーションキャプチャーディビジョンマネージャー 越田 弘毅

今後もデジタル・フロンティアは世界中の人々を楽しませる総合エンタテインメント・プロダクションとして時代の最前線（フロンティア）に立ち、高い技術力、発信力を持つスタッフたちと共に、さらなる驚きと感動を与える作品作りを目指して日々成長を続けて参ります。

■ 「モーションキャプチャー」サービスの概要

モーションキャプチャーとは人や動物、物体の動きを 3 次元で計測し、その動きをデジタルデータとして記録する技術です。記録された情報は、ゲームやアニメ、実写映画、VTuber などのキャラクターや物体の動きの再現に利用されています。デジタル・フロンティアのモーションキャプチャー撮影では、ご相談から、具体的な「撮影方法」、「アクターキャスティング」、「スケジュール」の適切なプランを柔軟にご提案いたします。「オパキス」では格闘技や軍事アクション、スポーツ、ダンスなど、あらゆるジャンルの演出ディレクターやアクターをコーディネート。さらに、ワイヤーアクション大道具、小道具まで収録に必要な道具全般の制作・手配も行っています。より効率的でスピーディーな撮影・納品体制が整っています。

サービスに関するより詳細な情報につきましては、下記ウェブサイトをご確認ください。

デジタル・フロンティア公式サイト

<https://www.dfx.co.jp/services/opakis>

デジタル・フロンティア公式 X

https://x.com/DF_Inc



■ スタジオ概要



システム	VICON Valkyrie VK26
カメラ台数	100 台
解像度	2620 万画素（業界最高解像度） 150FPS（データ精度を損なうことなくノイズの制御が可能に）
PC スペック	Shogun PC CPU：AMD Ryzen Threadripper PRO 5975WX 32-Cores 3.60 GHz GPU：GeForce RTX 4080
ソフトウェア	最新バージョン：Shogun 1.15
最大収録人数	30 人
設備	ワイヤーアクション収録対応 大道具から小道具まで、収録に必要な道具全般の制作・手配が可能 アクター控え室、更衣室 完備
スタジオサイズ	25m×25m
収録エリア	ボディ & フィンガー収録エリア： 15×10×4.5m（長方形）
撮影対応案件	ゲーム/アニメ/実写映画/ドラマ/VTuber など お芝居、アクション、ダンス等の様々なモーション収録対応

株式会社デジタル・フロンティアについて

円谷フィールドホールディングス株式会社のグループ会社であるデジタル・フロンティアは、3DCG 制作を中心とした日本の映像プロダクションです。国内におけるデジタルヒューマン研究開発のパイオニアであり、実在の人間と見間違えるほどの高品質な CG モデル制作技術を保有しています。実写合成の VFX、作画ベースのセルルックアニメーション、フル CG アニメーションなど、幅広いジャンルの制作を手掛けています。主な作品実績に、Netflix『シティーハンター』、『幽遊白書』、Netflix シリーズ『今際の国のアリス』シーズン 2、Amazon Prime Video『沈黙の艦隊 シーズン 1 ～東京湾大海戦～』、映画『竜とそばかすの姫』、『劇場版 ACMA:GAME アクマゲーム 最後の鍵』、ゲーム『龍が如く 8』、『鉄拳 8』、『FINAL FANTASY VII REBIRTH』などがあります。

[本サービスに関するお問い合わせ]

株式会社デジタル・フロンティア

お問い合わせフォーム：<https://forms.gle/1kXXMMFxdT2ETYcX8>

